Ⅱ-3　診療放射線学科

1．概要

1）学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

診療放射線学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1．人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
2．高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
3．対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
4．科学的根拠に基づき、放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力
5．科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

診療放射線学科のディプロマ･ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実験・実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1．人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する。
2．保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
3．科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
4．高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する。
5．豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う。

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

診療放射線学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1．診療放射線技師を志している人
2．診療放射線学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3．基礎的コミュニケーション能力を有している人
4．思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
5．知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
6．基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

２）教育目標

【教育目標―養成する人材像】

本学の教育理念を具現化し、以下に掲げる特性を備えた診療放射線技師を育成します。

１．生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる。

２．全人的理解を基盤とした人間関係を形成できる。

３．科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療を実践できる。

４．保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる。

３）　教育課程

（１）カリキュラムの特色と構成概念

診療放射線学科は、本学の教育理念に基づき、「幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と人間関係形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識および技術と専門職業人としての態度を教授する」ことを教育研究上の目的としています。

（２）教育課程の編成

教育課程の編成は、人材育成に必要な内容を授業科目として設定し、「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域で編成しています。また、診療放射線技師の養成施設としての指定規則条件を充足しつつ、診療放射線学科で掲げた人材育成に必要な選択科目を配置しています。

教育課程の各概念の間には相互関係が存在することを前提に、「基礎教育科目」と「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域に配置した各教育科目の内容が、有機的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成し、各領域における授業科目間の授業内容は、関連性と一貫性を保つよう設定しています。

なお、教育課程編成には、基礎教育科目→専門基礎教育科目→専門教育科目において、講義内容が順次理解できるように、内容の連続性と関連性を重視しています。教育科目の開講年次および前期、後期への配分については、これらのことを十分に考慮して配置しています。

（３）教育課程進度表

①　楔形配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に楔形に配置しています。

放射線医学は「ヒト」を対象に研究する学問ですので、人間理解に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育てるための教科目は、「基礎教育科目」として低学年に配置し、人間に関する学際的な学問領域の教科目を設定しています。

専門職業人を育成するための教科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定し、診療放射線技師として必要な専門的知識はそれらの領域で学修します。学年が進むにしたがい、「専門教育科目」が増えていきますが、「基礎教育科目」と「専門教育科目」が関連付けて学修できるように、「専門基礎教育科目」を１年次から配置し、「基礎教育科目」も可能な限り、楔形で配置しています。

② 学年の特徴

1年次では、基礎教育科目を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1年次から「専門基礎教育科目」を配置しているのは、専門教育科目への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」との関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としているからです。

2年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる実習で診療放射線領域の広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

③ 臨床実習

臨床実習は、既修の理論と知識や技能を体験的に学ぶ学修であり、また、臨床実習の体験から、放射線医学の現象を意味付け、診療放射線を知として学ぶ学修でもあります。

「早期臨床実習」では、早期に臨床現場を実習することで、他職種との関係や連携を通してチーム医療を体験し、診療放射線技師という職業を理解する学修です。「臨床実習Ⅰ」では、X線を使用した一般撮影をはじめ、CT、MRI、造影検査を通じて臨床の基本的な知識と技能に関する実践能力を身に付け、また、医療現場で患者と接しながら対人的な能力を体験的に学ぶ学修です。「臨床実習Ⅱ」では、臨床実習Ⅰの領域に加えて核医学検査分野と放射線治療分野の専門的な知識と応用能力を身に付ける学修の実習を配置しています。

④ 主体的学修

学修の主体は学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個別性に応じて、多領域にわたり学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をとおして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

2．履修について

履修とは、「必修・選択科目を確認のうえ単位修得を希望する科目について登録し、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」という過程を意味します。履修登録にあたり、『履修の手引き』・『シラバス』・『授業時間割』を熟読の上、履修計画を立ててください。1年間の履修計画を立て、前期の履修登録期間中に後期分の履修登録も行ってください。

1）　履修の上限単位（CAP制）

本学では、1単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかるために、学年ごとに適切に学修できるように履修登録科目数の上限制度であるCAP（キャップ）制を導入しています。このCAP制は、1年間に履修することのできる授業単位を制限するので、上限を超えた履修登録をすることはできません。

CAP制は、各学年において次のように定めています。

（2022年度以降入学生）

学年	1年間の上限
1年	47単位
2年	37単位
3年	36単位
4年	25単位

2）履修登録スケジュール

履修登録および履修登録変更のスケジュールは該当年度の履修の手引き及び掲示等で確認してください。

3）履修登録変更期間について

履修登録の内容を誤った場合や、授業の内容が自分の勉強したい内容と異なっていた場合、もしくは履修計画を見直した結果履修科目を変更したいという場合は、定められた期間で履修登録変更の手続きを行ってください。やむを得ない事情で所定の期間外の履修登録及び登録変更は、教務委員長の許可が必要になります。

履修登録変更の手続きについての詳細は該当年度の履修の手引き及び学生ポータルサイトで周知されます。

4）履修上の注意

卒業に必要な科目履修、単位の管理は、学生自身の自己責任となります。履修の手引きとシラバス等を活用して、履修方法、単位認定、試験等にかかわる事項を十分に確認しておきましょう。

また、堅実な履修計画を立て、単位を管理し、4年間の履修計画を立てておきましょう。

①　すでに単位を修得している科目を履修することはできません。

②　教育上やむを得ないと認められる場合は、履修登録の事前または事後に履修人数を調整することがあります。

③　授業時間が重複する科目を履修することはできません。

④　各学年において、上級学年に履修する授業科目を履修することはできません。

⑤　臨床実習の履修には、先修要件があります。先修要件を満たしていない場合は、実習を履修できません。臨床実習に関わる科目を履修するためには、履修規程第19条の進級要件を満たし、かつ次に定める科目の単位を修得していなければなりません。

5）先修要件

臨床実習科目	先修要件
早期臨床実習	履修条件は、1年次後期までの必修単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅰ	履修条件は、2年次後期までの専門基礎教育科目及び専門教育科目の必修単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅱ	履修条件は、3年次後期までの専門基礎教育科目及び専門教育科目の必修単位をすべて修得していること

3．単位修得について

1）卒業要件総単位数

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

診療放射線学科

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修科目	12 単位	31 単位	62 単位	105 単位
選択科目	8 単位	8 単位	7 単位	23 単位
小　計	20 単位	39 単位	69 単位	128 単位

2）算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1 単位とは、学生が 1 科目について行う45時間（2 単位の場合は90時間）の学修活動を意味し、その学修活動とは授業と自習からなります。授業科目の 1 単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や自習時間等を考慮したものです。

〈1 単位あたりの授業時間数〉

講義・演習	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
実験・実習	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの講義課目の中に講義、演習、実験、実習のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目の中に講義、演習、実験、実習のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。

3）単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の 3 分の 2 以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

4.　履修科目について

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

1）基礎教育科目（必修科目12単位、選択科目18単位から 8 単位以上選択）

「人間と生活」必修科目 3 単位、選択科目10単位から 4 単位以上選択

生命・人間・社会等に関する幅広い学問領域について学び、自主的・自律的に学ぶ姿勢を身につけます。

「科学的思考の基礎」必修科目 8 単位、選択科目 4 単位から 2 単位以上選択

診療放射線学科の専門課程を学んでいく基礎となる探究心と科学的思考力を養います。

「語学」必修科目 1 単位、選択科目 4 単位から 2 単位以上選択

語学学習を通して他者とのコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

2）専門基礎教育科目（必修科目31単位、選択科目12単位から 8 単位以上選択）

「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」必修科目12単位、選択科目 5 単位から 3 単位以上選択

診療放射線学を学ぶ上で必修の基礎知識である人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを履修します。具体的には、解剖学、生理学、病理学、薬理学、衛生学などを学びます。

「保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術」必修科目16単位、選択科目 4 単位から 3 単位以上選択

放射線、放射線の物質との相互作用など放射線に関係する基礎的な教科を履修します。具体的には放射線物理学・放射化学・生物学、放射線計測学などを学びます。

「医療専門職の機能と役割」必修科目 3 単位、選択科目 3 単位から 2 単位以上選択

医療は多くの専門職種とのチーム医療として行われている事を学びます。

3）専門教育科目（必修科目62単位、専門教育科目全体の選択科目10単位から 7 単位以上選択）

専門教育科目は、専門基礎分野等で修得した内容を踏まえ、医療専門職として必要な専門的知識と技術を修得します。

「診療画像技術学・画像診断学」

ここには診療画像技術学として合計11科目、画像診断学として合計 6 科目があり、診療画像検査に関する検査技術・検査機器・検査実験などと、画像解剖学・画像診断学の専門知識を学びます。診療画像技術学には必修科目14単位と選択科目 2 単位、画像診断学には必修科目 8 単位と選択科目 2 単位があります。

「核医学検査技術学」

ここには合計 5 科目があり、核医学検査に関する専門知識を学びます。必修科目 6 単位と選択科目 1 単位があります。

「放射線治療技術学」

ここには合計 5 科目があり、放射線治療に関する専門知識を学びます。必修科目 7 単位と選択科目 1 単位があります。

「医療画像情報学」

ここには合計 5 科目があり、医療画像に関する専門知識を学びます。必修科目 6 単位と選択科目 1 単位

があります。

「放射線安全管理学」

ここには必修の３科目があり、放射線管理に関する専門知識を学びます。必修科目４単位があります。

「医療安全管理学」

ここには必修の２科目があり、医療安全に関する専門知識を学びます。必修科目２単位があります。

「臨床実習」

臨床実習は必修の科目で、２学年の「早期臨床実習」1 単位と３学年の「臨床実習Ⅰ」5 単位と４学年の「臨床実習Ⅱ」6 単位があり臨床実習病院での実習となります。臨床実習は、医療の現場で臨床実習指導者から検査・治療について学びます。学内の講義で学んだ事も含めて実際の医療現場でどの様に行われているかを体験し、患者接遇や他の医療職種のコミュニケーションについても学びます。

「総合科目」

総合科目は合計３科目があり、専門教育科目の復習の内容になっており、履修した専門教育科目のより深い理解やスキルを身につける内容を学びます。臨床実習や国家試験に向けて専門領域の学修をします。必修科目２単位と選択科目１単位があります。

「卒業研究」

卒業研究は合計２科目があり、３年次までに習得した知識を基礎として自主的な研究意欲と研究の基本的な考えを養うため、担当教員の指導の下で研究計画を立案します。４学年では立案された研究計画に従い研究を進め、最終的に卒業論文としてまとめます。また、卒業研究発表会においてプレゼンを行い、お互いに研究内容を報告します。必修科目１単位、選択科目２単位があります。

〈履修科目一覧　診療放射線学科（2022年度以降カリキュラム）〉

科目区分		必修／選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	卒業認定に必要な単位数
基礎教育科目	人間と生活	必修	＊生命科学［1］ ＊心理学［1］	＊医療コミュニケーション学［1］							3単位
		選択	倫理学［1］ 人間関係の科学［1］ 北海道史［1］	教育学［1］ 生命倫理［1］ 医療と宗教［1］ 文化人類学［1］ 医療と社会［1］ 法学［1］	ボランティア論［1］						選択科目10単位から4単位以上
	科学的思考の基礎	必修	＊物理学［2］ ＊化学［1］ ＊生物学［1］ ＊数学Ⅰ（指数・対数・三角関数）［2］ ＊情報科学［1］	＊数学Ⅱ（微分・積分・微分方程式）［1］							8単位
		選択	生活と運動［1］	数学Ⅲ（統計学）［1］ 情報科学演習［1］	健康とスポーツ［1］						選択科目4単位から2単位以上
	語学	必修	＊英語Ⅰ［1］								1単位
		選択	日本語表現［1］	英語Ⅱ［1］ 中国語［1］	韓国語［1］						選択科目4単位から2単位以上
専門基礎教育科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	必修	＊医学概論［1］ ＊系統解剖学［2］	＊臨床解剖学［2］ ＊衛生学［1］	＊病理学［1］ ＊生化学［1］	＊病態生理学［1］ ＊臨床医学概論［1］	＊臨床薬理学Ⅰ［1］		＊公衆衛生学［1］		12単位
		選択		系統解剖学演習［1］	臨床解剖学演習［1］ 生理学［1］		臨床薬理学Ⅱ［1］ 臨床医学演習［1］				選択科目5単位から3単位以上
	保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術	必修	＊放射線科学概論［2］	＊放射線生物学［2］ ＊放射線物理学［2］ ＊放射化学［2］ ＊放射線・物理学実験［1］ ＊医用工学［2］ ＊診療画像検査学概論［2］	＊放射線計測学［2］				＊放射線計測学演習［1］		16単位
		選択			放射線生物学演習［1］ 放射線物理学演習［1］ 放射化学演習［1］				医用工学演習［1］		選択科目4単位から3単位以上

診療放射線学科

科目区分			1年		2年		3年		4年		卒業認定に必要な単位数
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎教育科目	医療専門職の機能と役割	必修			＊基礎看護学［1］	＊チーム医療論［1］			＊医療職としての責任と役割［1］		3単位
		選択			医療経済学［1］ 心の健康科学Ⅰ［1］	放射線カウンセリング学［1］					選択科目3単位から2単位以上
専門教育科目	診療画像技術学・画像診断学	必修			＊診療画像技術学Ⅰ（一般撮影）［2］ ＊X線CT検査学［1］ ＊放射線技術学実習Ⅰ［1］ ＊診療画像機器学［2］	＊診療画像技術学Ⅱ（造影検査）［2］ ＊MRI検査学［2］ ＊放射線技術学実習Ⅱ［1］	＊超音波検査学［2］	＊放射線技術学実習Ⅲ［1］			14単位
		選択							診療画像技術学演習※［1］ 診療画像機器学演習※［1］		※1
		必修				＊画像解剖学Ⅰ（X線画像）［2］	＊画像解剖学Ⅱ（MRI・超音波）［2］ ＊実践臨床画像学［2］	＊画像診断学［2］			8単位
		選択						画像解剖学Ⅲ（演習）※［1］		画像診断学演習※［1］	※1
	核医学検査技術学	必修				＊放射性医薬品学［1］	＊核医学検査技術学概論［1］ ＊核医学検査機器学［2］	＊核医学検査技術学［2］			6単位
		選択								核医学検査技術学演習※［1］	※1
	放射線治療技術学	必修				＊放射線治療技術学概論［2］	＊放射線治療技術学［2］	＊放射線治療機器学［2］	＊放射線治療計測学［1］		7単位
		選択								放射線治療技術学演習※［1］	※1
	医療画像情報学	必修				＊医療画像処理学［1］	＊医療画像工学［2］	＊医療画像情報学［2］	＊医療情報管理学［1］		6単位
		選択								医療画像情報学演習※［1］	※1

診療放射線学科

科目区分			1年		2年		3年		4年		卒業認定に必要な単位数
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	放射線安全管理学	必修					＊医療機器安全管理学［1］	＊放射線安全管理学［2］	＊関係法規［1］		4単位
	医療安全管理学	必修						＊医療安全管理学［1］	＊応急処置法（演習）［1］		2単位
	卒業研究	必修						＊診療放射線学コロキウム［1］			1単位
		選択							卒業研究※［2］		※1
	総合科目	必修								＊総合演習Ⅰ（専門基礎領域）［1］ ＊総合演習Ⅱ（臨床領域）［1］	2単位
		選択							放射線技術学特別講義※［1］		※1
	臨床実習	必修			＊早期臨床実習［1］		＊臨床実習Ⅰ［5］		＊臨床実習Ⅱ［6］		12単位

必修科目	31単位	26単位	33単位	15単位	105単位
選択科目	16単位	11単位	3単位	10単位	40単位
計	47単位	37単位	36単位	25単位	145単位
CAP制（履修上限）	47単位	37単位	36単位	25単位	145単位

○＊は必修科目

○卒業要件　128単位以上　必修　105単位　選択　23単位以上

○［　］内は単位数

○※1　診療画像技術学、画像診断学、核医学検査技術学、放射線治療技術学、医療画像情報学、総合科目、卒業研究の全ての選択科目の中から7単位以上を修得

〈カリキュラムマップ　診療放射線学科〉

DP				DP.5 科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力			
				DP.4 科学的根拠に基づき、			
				DP.3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力			
	DP.1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質			DP.2 高い専門			
科目区分	基礎教育科目			専門基礎教育科目			
	人間と生活	科学的思考の基礎	語学	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術	医療専門職の機能と役割	診療画像技術学
1年次	生命科学（必1）	物理学（必2）	日本語表現（選1）	医学概論（必1）	放射線科学概論（必2）		
	心理学（必1）	化学（必1）	英語Ⅰ（必1）	系統解剖学（必2）	放射線生物学（必2）		
	倫理学（選1）	生物学（必1）	英語Ⅱ（選1）	系統解剖学演習（選1）	放射線物理学（必2）		
	生命倫理（選1）	生活と運動（選1）	中国語（選1）	臨床解剖学（必2）	放射線・物理学実験（必1）		
	医療と宗教（選1）	数学Ⅰ（指数・対数・三角関数）（必2）		衛生学（必1）	放射化学（必2）		
	人間関係の科学（選1）	数学Ⅱ（微分・積分・微分方程式）（必1）			医用工学（必2）		
	文化人類学（選1）	数学Ⅲ（統計学）（選1）			診療画像検査学概論（必2）		
	医療と社会（選1）	情報科学（必1）					
	法学（選1）	情報科学演習（選1）					
	教育学（選1）						
	北海道史（選1）						
	医療コミュニケーション学（必1）						
2年次	ボランティア論（選1）	健康とスポーツ（選1）	韓国語（選1）	臨床解剖学演習（選1）	放射線生物学演習（選1）	基礎看護学（必1）	診療画像技術学Ⅰ（一般撮影）（必2）
				生理学（選1）	放射線物理学演習（選1）	チーム医療論（必1）	診療画像技術学Ⅱ（造影検査）（必2）
				病態生理学（必1）	放射化学演習（選1）	医療経済学（選1）	X線CT検査学（必1）
				病理学（必1）	放射線計測学（必2）	心の健康科学Ⅰ（選1）	MRI検査学（必2）
				生化学（必1）		放射線カウンセリング学（選1）	放射線技術学実習Ⅰ（必1）
				臨床医学概論（必1）			放射線技術学実習Ⅱ（必1）
							診療画像機器学（必2）
3年次				臨床薬理学Ⅰ（必1）			超音波検査学（必2）
				臨床薬理学Ⅱ（選1）			放射線技術学実習Ⅲ（必1）
				臨床医学演習（選1）			
4年次				公衆衛生学（必1）	医用工学演習（選1）	医療職としての責任と役割（必1）	診療画像技術学演習（選1）
					放射線計測学演習（必1）		診療画像機器学演習（選1）

※DP：ディプロマポリシー

放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力

性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し保健医療福祉の向上に寄与できる能力

専門教育科目								
画像診断学	核医学検査技術学	放射線治療技術学	医療画像情報学	放射線安全管理学	医療安全管理学	総合科目	臨床実習	卒業研究
画像解剖学Ⅰ（X線画像）（必2）	放射性医薬品学（必1）	放射線治療技術学概論（必2）	医療画像処理学（必1）				早期臨床実習（必1）	
画像解剖学Ⅱ（MRI・超音波）（必2）	核医学検査技術学概論（必1）	放射線治療技術学（必2）	医療画像工学（必2）	放射線安全管理学（必2）	医療安全管理学（必1）		臨床実習Ⅰ（必5）	診療放射線学コロキウム（必1）
画像解剖学Ⅲ（演習）（選1）	核医学検査機器学（必2）	放射線治療機器学（必2）	医療画像情報学（必2）	医療機器安全管理学（必1）				
実践臨床画像学（必2）	核医学検査技術学（必2）							
画像診断学（必2）								
画像診断学演習（選1）	核医学検査技術学演習（選1）	放射線治療計測学（必1）	医療画像情報学演習（選1）	関係法規（必1）	応急処置法（演習）（必1）	放射線技術学特別講義（選1）	臨床実習Ⅱ（必6）	卒業研究（選2）
		放射線治療技術学演習（選1）	医療情報管理学（必1）			総合演習Ⅰ（専門基礎領域）（必1）		
						総合演習Ⅱ（臨床領域）（必1）		